

ユビキタス環境制御システム研究会設立の趣意と入会のご案内

設置面積が減少しつつある施設園芸を含め、農業を取り巻く環境が益々厳しくなる中、新たな食料・農業・農村基本計画が閣議決定されるなど、将来に向けた新たな農業の提案・模索が進んでおります。施設園芸におきましても、一層の低コスト化、競争力の強化など、多くの課題に産官学が一体となった取り組みが進められつつあります。その中で、大切なことは、限られたマーケットを奪い合うことではなく、新たな技術・戦略を積極的に導入し、新たなマーケットを創出することではないかと考えます。

施設園芸や植物工場においては、閉鎖環境を制御可能なため、その制御システムの高度化・情報化・低価格化が、作物の生産性や競争力強化には不可欠な要素であることは自明です。そこで、日本の施設園芸生産システムに適合した、次世代型の高性能・低コスト施設園芸用環境制御システムの研究開発に 6 年ほど前から着手し、農林水産省の「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」からもご支援いただきまして、ユビキタス環境制御システム(以下、UECS)の実用化に目処をつけることができました。野菜茶業研究所における超低コスト耐候性ハウスの開発研究、日本施設園芸協会が推進しております「スーパーホルト」プロジェクトとも緊密に連携をとり、野菜茶業研究所に将来の低コスト高度施設生産の姿を具現化したモデル温室の環境制御システムとして採用されたほか、来る 7 月下旬に幕張メッセで開催されます第 12 回国際施設園芸技術展において実機が特別展示予定であるなど、実用化への最終段階を迎えております。そこで、このシステムが日本の施設園芸業界へ真に貢献するために、施設園芸分野に造詣の深い発起人の方々のご賛同を賜りまして、この度、開発・改良、広報を目的とする研究会を設立いたします。

この技術を適用いたしますと、全ての機器が IT 化されて情動的に接続され、しかも、従来は生産現場への適用が困難だった生産管理ソフトウェアが、共通的に使用できるようになります。さらに、分散型で要素別にブロック化されたシステムであるため、軽装備ハウスから重装備温室まで、生産者の要望や作物、作型、規模にも柔軟に対応し、かつ適切なコストで高度な環境制御と計測が可能になります。これらにより、施設園芸でのコンピュータ利用の拡大や、新たなマーケット展望が開け、結果日本の農業に貢献できるものと確信いたしております。

本システムの開発・導入・利用に関する情報を、本会を通じて積極的に交換していきたいと考えます。施設園芸設備機器メーカ、ソフトウェアの開発・製造企業、研究機関、先進的生産者の方など、積極的なご参加をお待ち申し上げます。別紙の概要をご検討いただき、ご入会をご検討いただければ幸いです。

2006 年 6 月吉日

ユビキタス環境制御システム研究会 設立準備会代表
林 泰正((有)エヌアイシステム常務取締役開発部長)

発起人(五十音順):

池田英男(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授)

猪野義道((有)エヌアイシステム代表取締役)

木田滋樹((社)日本施設園芸協会会長)

古在豊樹(千葉大学学長)

佐瀬勘紀((独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所農業施設工学チーム長)

高市益行((独)農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所高収益施設野菜研究チーム長)

新堀行男((株)誠和新事業 PJ 本部長)

馬場 勝(ネポン(株)技術営業部次長)

星 岳彦(東海大学開発工学部教授) <研究会 会長予定>